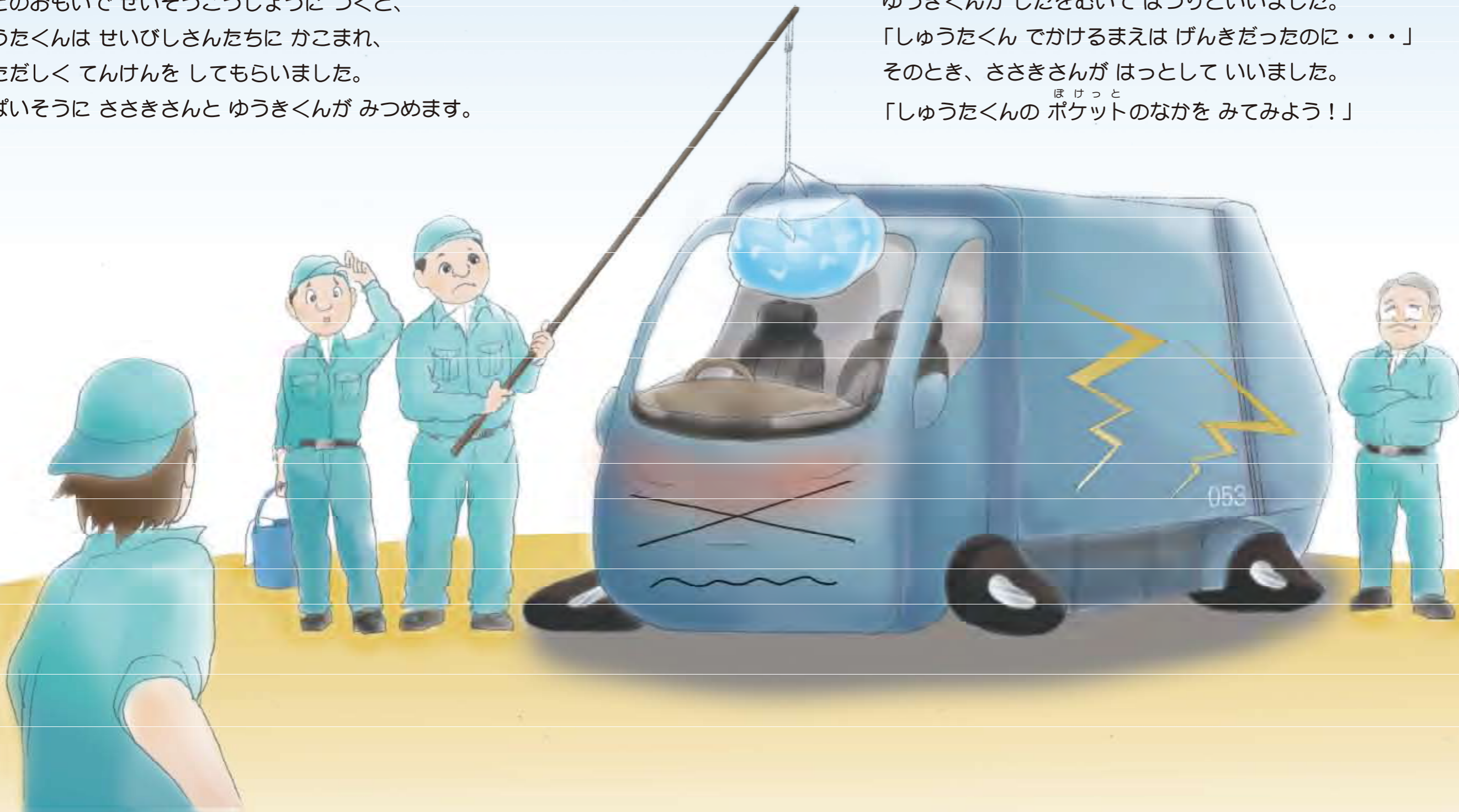


やっとのおもいでせいそうこうじょうにつくと、
しゅうたくんはせいびしさんたちにかこまれ、
あわただしくてんけんをしてもらいました。
しんぱいそうにささきさんとゆうきくんがみつめます。

ゆうきくんがしたをむいてぼつりといいました。
「しゅうたくん でかけるまえはげんきだったのに・・・」
そのとき、ささきさんがはっとしていいました。
「しゅうたくんの^{ほけっと}ポケットのなかをみてみよう！」





「あ！」
とつぜん、みんなが
こえをあげました。
「これが げんいんだ！」
ほげっと
ポケットのなかを
のぞいてみると、
もえるごみの
ふくろのなかから、

あきびんや ぺっとほとる ペットボトル、あきかんなど、
たくさんの しげんぶつや もえないごみが でてくる、でてくる。
「ごみを きちんとわけずに いれたから、
しゅうたくんが うごけなくなったんだ。
しゅうたくん たいへんだったね、つらかったね」
ささきさんが しゅうたくんを さすりながら いいました。



しゅうたくんが こわれてしまった じけんは
たちまち まちのなかで うわさになり、
しんぶんにおおきくのりしました。



まちのみんなはそのニュースをみておどろきました。
「しゅうたくん、ごめんね。つらかったろうね」
ひとびとはくちぐちにいいました。



しゅうたくんがいないまちはどこかひっそりとさびしく、
いつものすがすがしいくうきは ありません。

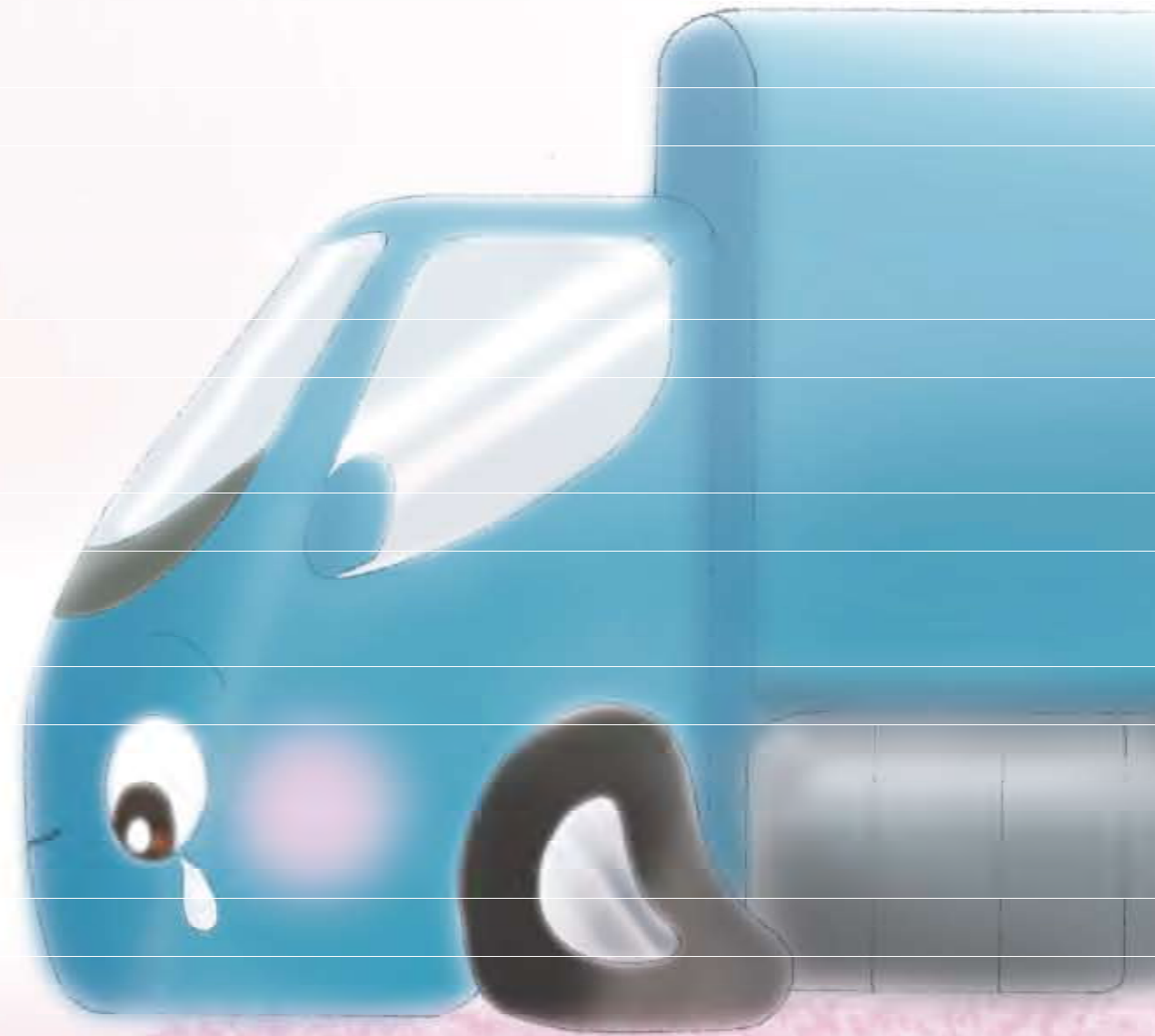
しゅうしゅう^{しゃ}車が こわれてしまうと、
いままでのように ごみの しゅうしゅうが できず、
ひとびとは こまりはてました。

「もう、ぜったいに しゅうたくんが こわれないように、
わたしたちから ごみを わけましょう」
ひとりの おんなのこが ていあんしました。
まちの ひとびとは だいさんせい。
しゅうたくんが こわれてしまったことで
みんなは、じぶんのごみを きちんと わけようと やくそくしました。

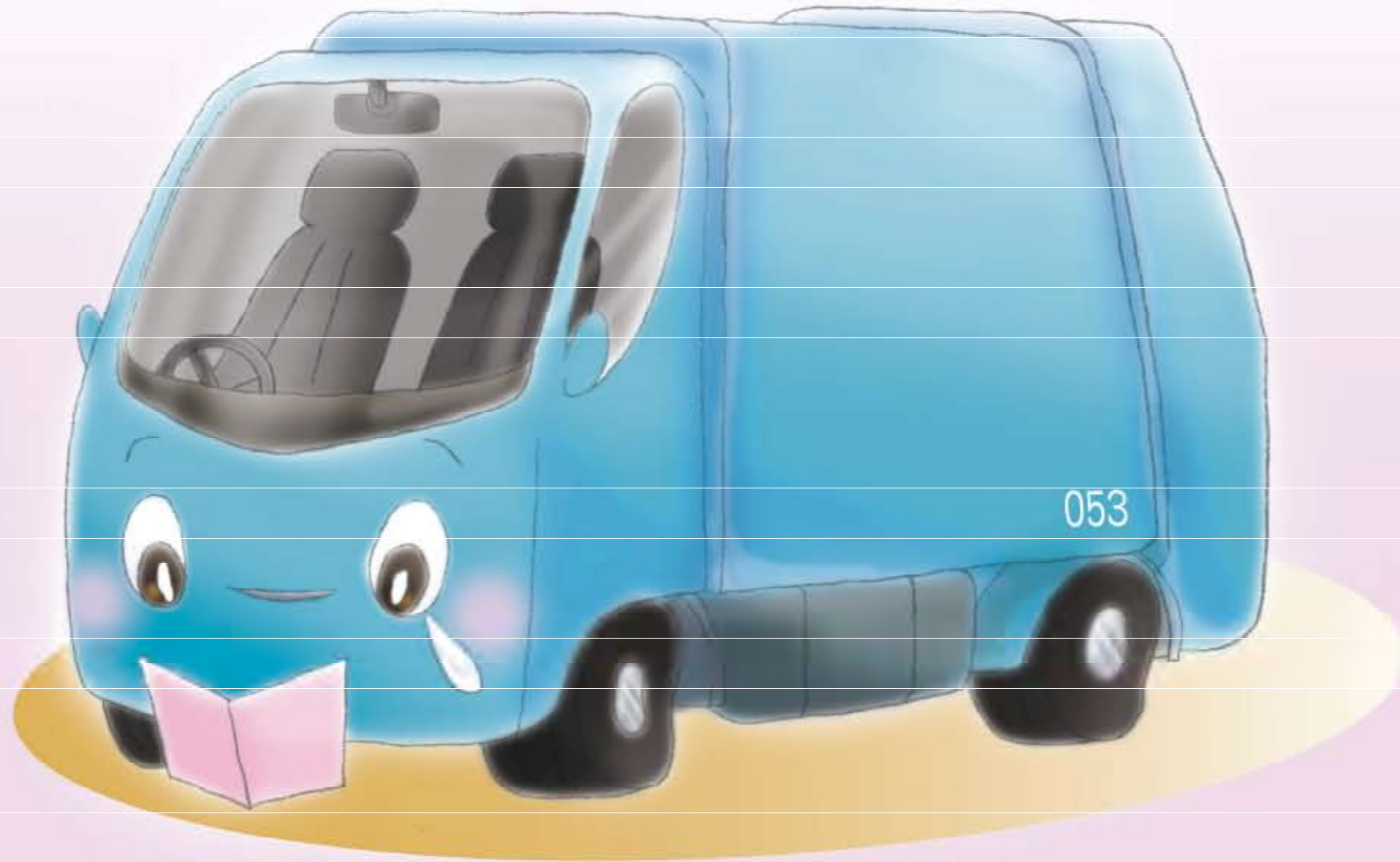




「しゅうたくん、どうですか？
はやくよくなってくださいね」
「げんきなすがたをみせてください」
せいそうこうじょうには、まちのひとからの
はげましのこえがとどきました。
そのこえはすぐに
しゅうたくんのところにとどきました。



こわれてしまってげんきがなくなったしゅうたくんは、
みんなのこえにはげまされ、
ひにひにげんきをとりもどしていきました。
「まちのひとがまっているよ。
ぼく・・・はやくみんなにあいにいきたいよ」





「てんけん いじょうなーし」
ゆうきくんはうれしそうに
おおきなこえでいいました。
「さあ、^{えんじん}エンジンをかけるぞ。
しゅうたくん、きょうからまた たのむよ」
「まかせて、ゆうきくん」
ふたりは おおごえでわらいました。



「なんだか たのしそうだな」
ささきさんが ゆっくりとあるいて
ふたりに ちかづきました。
「まちのひとたちは、もうにどと
しゅうたくんが こわれないようにと
はなしあってくれたそうだ。
よーし、みんなに かんしゃして、
またまちを きれいにしような。
ゆうきくん、しゅうたくん、
さあ、しゅっぱつするぞ」

「^{おらーい}、^{おらーい}、^{すどっぴ}ストップ」

ぶーん、ぶーん、ぶーん。

げんきになったしゅうたくんがまちを駆けまわります。

それをみたまちのひとたちは、

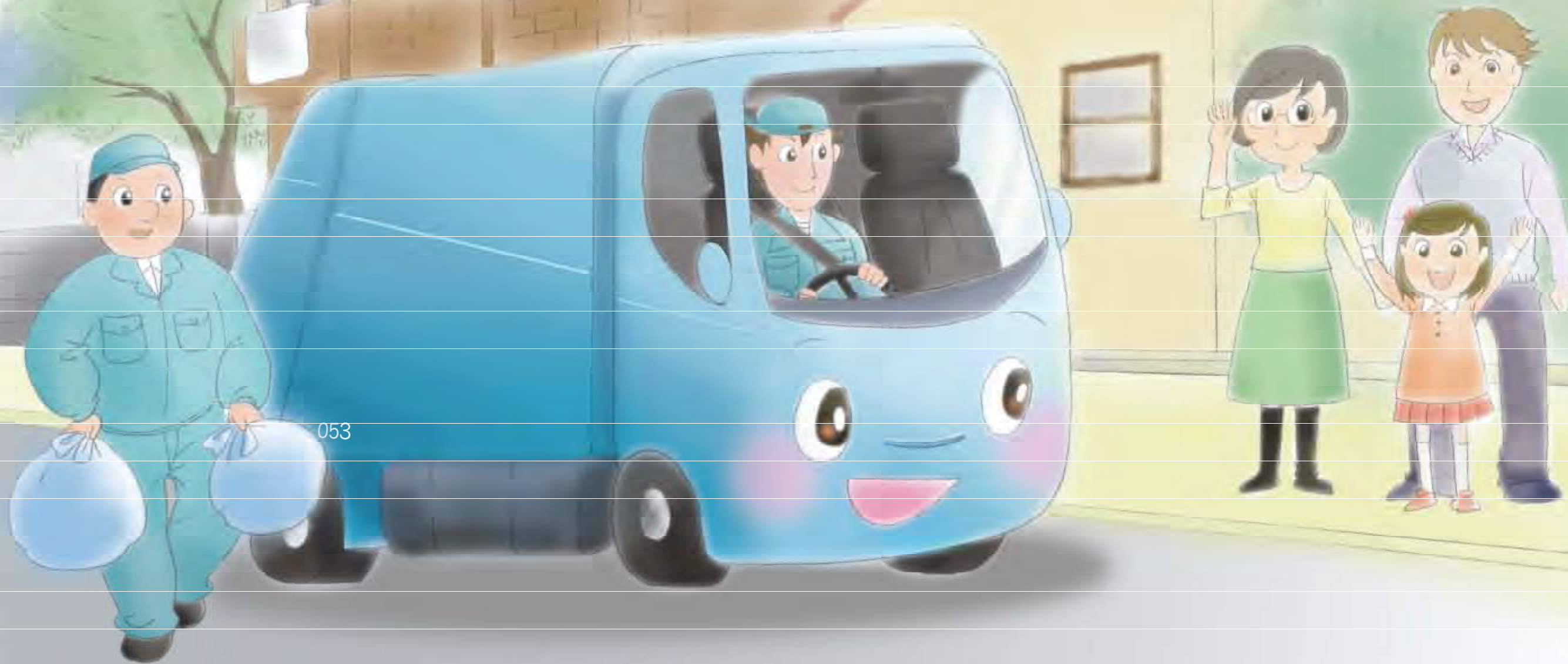
てをふってうれしそうにこえをかけます。

しゅうたくんがいますと

まちはぱーっとあかるくさわやかになります。

「しゅうたくん、いつもありがとう」

「これからもずーっと、よろしくね」



053



しゅうたくんについて

「ごみしゅうしゅう車のしゅうたくん」は、市民と本市収集職員のふれあいから生まれた物語です。収集車が大好きな息子と、いつもさわやかにあいさつをしている収集職員の様子をもとに、原作者がお話を、創価大学美術部の学生がイラストを担当しました。本書を通じて、子どもたちといっしょにごみについて考えるきっかけになれば幸いです。

原作：上田 智子 HPアドレス【<http://tomokochan.jugem.jp/>】

イラスト作成：創価大学美術部（田辺 洋美、今村 純子、浅羽 希望、有田 久美子）

企画・制作：八王子市環境部

編集：八王子市、上田 智子、内山 俊之、創価大学美術部

ごみしゅうしゅう車のしゅうたくん

2010年3月16日 初版第1刷発行

発行者：八王子市

発行元：八王子市環境部ごみ減量対策課

東京都八王子市元本郷町3-24-1

